



ハルナグループホールディングス株式会社  
代表取締役社長兼CEO

青木 麻生

ハルナグループは、社会に幅広く必要とされる企業グループとして、消費者のニーズに応える新たな飲料やワインをプロデュースしています。「飲む感動」「おいしさ」「喜び」「新しさ」「健康」を通じて人々の暮らしに潤いを届け、皆様の信頼と期待に応えることをパーパスに掲げています。

多くのステークホルダーの皆様のおかげをもちまして、当社グループは2026年2月23日に創立30年を迎えました。

これもひとえに、当社グループとメンバー全員を信頼し、ともに歩んでくださっている皆様のご支援の賜物と、心より深く感謝申し上げます。

1996年の創業以来、ハルナグループはさまざまな飲料製品を生み出し、現在では年間約6,000 SKUを企画・開発・製造し、お客様に提供しております。

「顧客志向を経営の核として」、「顧客評価の品質とは何か」「顧客志向を超える製造とは何か」を常に問い続け、顧客歓喜の成果を自らの収穫とする創業の理念を実践してまいりました。また、価値を生み出す源泉は何よりも人財であるという強い思いを持ち続けてきました。

そしてこれからも、新たな未来を創造し、持続可能な成長と社会への貢献を実現するため、従業員のウェルビーイングを「ビジョン2030」に向けたコアバリューとして位置付け経営の中心の一つとして取り組んでまいります。

**ハルナウェルビーイング ファイブ**  
(キャリア・ソーシャル・ファイナンシャル・フィジカル・コミュニティ)  
の充実による持続可能な人財成長と収益成長の両輪

**キャリア**  
ウェルビーイング

仕事や私生活の  
キャリアアップ



**ソーシャル**  
ウェルビーイング

信頼できる  
人間関係



**ファイナンシャル**  
ウェルビーイング

報酬・福利厚生  
など経済面



**フィジカル**  
ウェルビーイング

身体・健康面と  
モチベーション



**コミュニティ**  
ウェルビーイング

地域社会・顧客・  
取引先等との  
つながり交流



ハルナグループのSDGsの取り組み

ハルナグループは2019年に経団連へ入会したことを機に、SDGs(持続可能な開発目標)を経営戦略の重要課題と認識しました。経済的価値の追求に加え、社会的価値の創出も両立させることで、持続的成長と企業価値の向上を図る取り組みを推進しております。

当社では、下記の7つを特に重要な目標として定め、継続的に取り組んでいます。

7つのSDGs(重点目標)

01 | すべての人の健康と労働環境改善

消費者の皆様の健康的なライフスタイルの促進、バリューチェーン全体での労働環境改善を目指す

02 | 水資源の重要性と環境保全活動

製造で使用する水の削減・リサイクルの徹底、水資源の重要性の発信と環境保全活動の推進

03 | エネルギー消費の低減と再生可能エネルギーの活用

エネルギー効率改善、消費低減、再生可能エネルギー活用を目指す

04 | グループビジョンと働きがい

個人目標とグループビジョンを同時に実現できる体制の構築、すべての社員が働きがいを感じられる企業グループの実現

05 | 社会基盤を支え続ける企業へ

総合飲料プロデューサーとしてのプラットフォームを構築し、社会基盤を支え続けられる企業を目指す

06 | 持続可能な消費・生産形態の実現

廃棄物の低減とリサイクルを促進し、持続可能な消費・生産形態の実現を目指す

07 | 企業と社会的価値創造

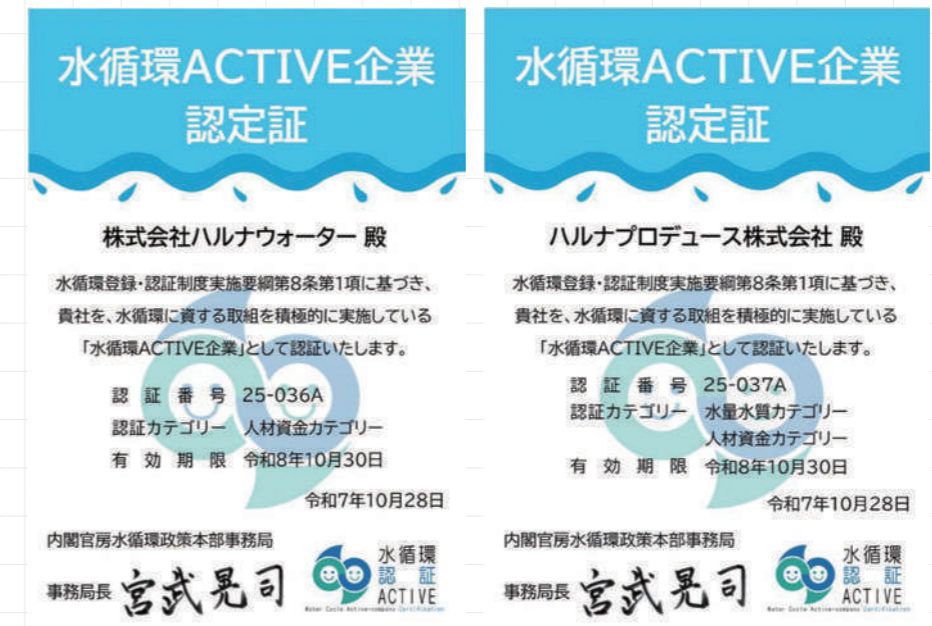
すべてのステークホルダーと協働し、企業活動と社会的価値創造の結びつきの強化を目指す

「水循環ACTIVE企業」認証について

当社グループ会社が、内閣官房水循環政策本部の定める「水循環ACTIVE企業」に認証されました。

持続可能な水循環の推進に積極的に取り組む企業として、内閣官房水循環政策本部事務局が実施する「水循環企業登録・認証制度」において、ハルナプロデュース株式会社は「水量・水質カテゴリー」「人材・資金カテゴリー」の両カテゴリーで、株式会社ハルナウォーターは「人材・資金カテゴリー」にて、水循環ACTIVE企業として認証されました。

ハルナグループの事業活動に欠かせない自然資源である「水」を有効活用し、地球環境を持続可能な形で次世代へ引き継いでいくことを重要な使命と捉えております。今後も、水資源の保護と豊かな水循環の継承に向け、継続的に取り組みを進めてまいります。



ハルナグループは健康経営を推進します

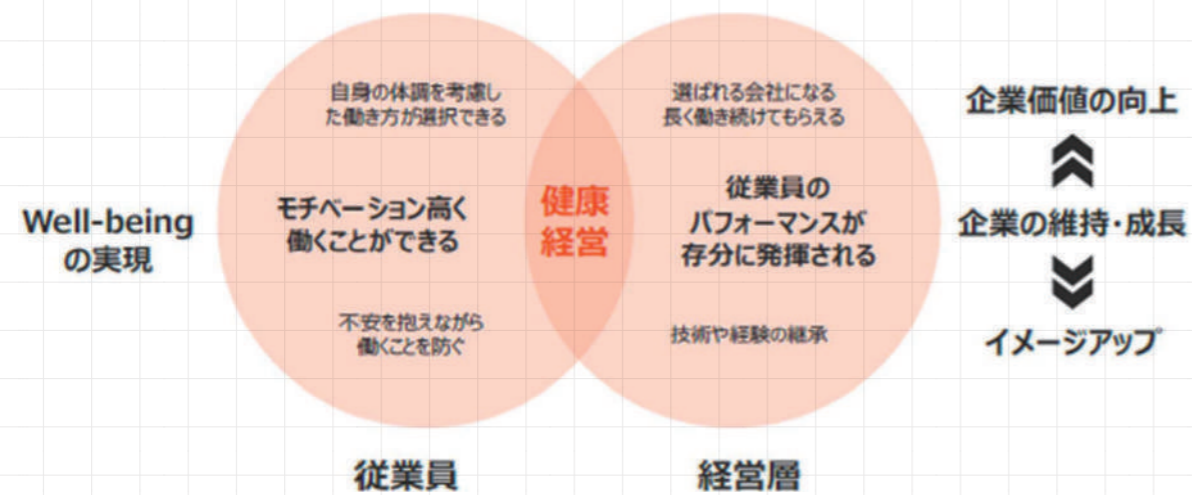
近年、少子高齢化や労働力不足、AIをはじめとした先進技術の浸透、個人の価値観の多様化などにより、日本企業には持続的成長と社会的責任の両立が求められています。こうした状況の中、ハルナグループは全社をあげて健康経営に取り組み、個人の多様性を尊重し、誰もが心身ともに健やかに、能力を最大限に発揮できる会社を目指します。

社員の健康づくりを計画的に支援することで、個人の充実感と組織の活力を同時に高め、ウェルビーイング向上と企業の持続的成長を両立させてまいります。あわせて、健康経営優良法人の認定取得に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

健康経営宣言

ハルナグループは、従業員一人ひとりの心身の健康を、『経営理念』実現の基盤と位置付けます。従業員とその家族の健康保持・増進、および活力ある職場環境づくりに全社をあげて取り組み、健康経営を継続的に推進することをここに宣言します。

健康経営に取り組む意義



[出典] 経済産業省「健康経営ガイドブック」発行年月：2025年3月版

ハルナグループは未来への挑戦をします

01 2025年、グループ初となる「日本茶」と「フランスパティスリー」を融合した新コンセプトのカフェを、パリ・サンジェルマン地区に出店しました。



02 長年にわたり米国オレゴン州、ポルトガル、ドイツ、ハンガリー産のプレミアムワインをリーズナブルな価格で提供してきたKOBEインターナショナル社をグループに迎え、新たな事業への挑戦を続けています。

03 アジアの拠点として2013年より活動しているHARUNA Asia (Thailand)：バンコクでは、日本で培った商品開発力・技術力・品質が高く評価されています。飲料にとどまらず、チョコレートやグミをはじめとした自社開発・共同開発の新製品が、タイをはじめシンガポール、ベトナム、マレーシア、香港などASEAN諸国へと展開を拡大してまいります。



当社グループは2026年に創業30年を迎えこれからの未来に向けて、人財への投資・育成に一層注力するとともに、社員一人ひとりが経験・知識・スキルを発揮できる環境づくりをさらに進め、ステークホルダーの皆様からの信頼と期待に応え続けられるよう邁進してまいります。



# 02 ハルナグループのあゆみ

独創性ある飲料プロデューサーとして  
ステークホルダーの皆様から大なる期待と満足を得られる企業へ

## 1996

- 平成8年2月23日に資本金30百万円で  
ハルナビレッジ株式会社に創業者青木清志が設立
- 第一工場稼働
- 東京にマーケティング本部設立



▲ ハルナビレッジ株式会社を設立

## 1997

- ハルナビレッジ研究所設立
- 第二工場稼働

## 2000

- 第三工場稼働



▲ 第三工場

## 2001

- 第三工場がJAS工場として認定

## 2002

- リサイクルシステム協議会発足
- 新日本監査法人による  
第7期決算調査及び指導
- 四半期報告会を開催
- HACCP認証取得に向け取り組み

## 2003

- 環境会計の導入
- FOODEX出展

## 2004

- 人事基本理念制定
- 物流関連ハルナロジスティクス(株)設立

## 2005

- 製造者養成ビジネススクール開講
- 緑地公園「ハルナコミュニティガーデン」を整備
- 創業10周年記念会



▲ 製造者養成ビジネススクール



▲ 創業10周年記念会

## 2006

- ハルナエコロジー(株)、  
ハルナロジスティクス(株)に資本金5千万円に増資
- 全工場にてHACCP承認
- 国際食品飲料展FOODEX JAPAN出展

## 2007

- ハルナエコロジー(株)ウェルネスサイエンス研究所発足
- 合併会社ハルナヨーロッパ設立
- ハルナグループ全体会議開催
- タニガワビレッジ株式会社始動

## 2008

- ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社設立
- 群馬県初のプロ野球チーム群馬ダイヤモンドベガサスを  
パートナーシップスポンサーとして応援
- タニガワビレッジ(株)天然ガス設備稼働



▲ タニガワビレッジ株式会社

## 2009

- ハルナロジスティクス(株)  
ハルナビレッジ(株)へ吸収合併

## 2010

- ハルナグループ組織再編スタート
- ハルナマーケティング(株)設立
- 「ハルナビジョン2015」公表
- ハルナグループ企業行動憲章・企業行動規範制定
- 創業15周年記念誌「はじめなければはじまらない」発刊
- ハルナエコロジー(株)よりHARUNA(株)へ社名変更

## 2011

- ハルナビレッジファクトリー(株)がタニガワビレッジ(株)に吸収合併
- ハルナビレッジ(株)がワイエスロジスティクス(株)の  
株式を100%取得し、ハルナロジスティクス(株)へ社名変更
- プラントシステムインベーション「見える化」にてコントロール室完成



▲ コントロール室完成

## 2012

- ハルナ工場のエネルギー転換(A重油から都市ガスへ)

### 受託業務を主として事業を拡大

#### 草創期 1996-2000

顧客拡充・積極的設備投資による量的拡大と小型ペットボトル解禁による成長機会の利用

### 企業基盤の運用

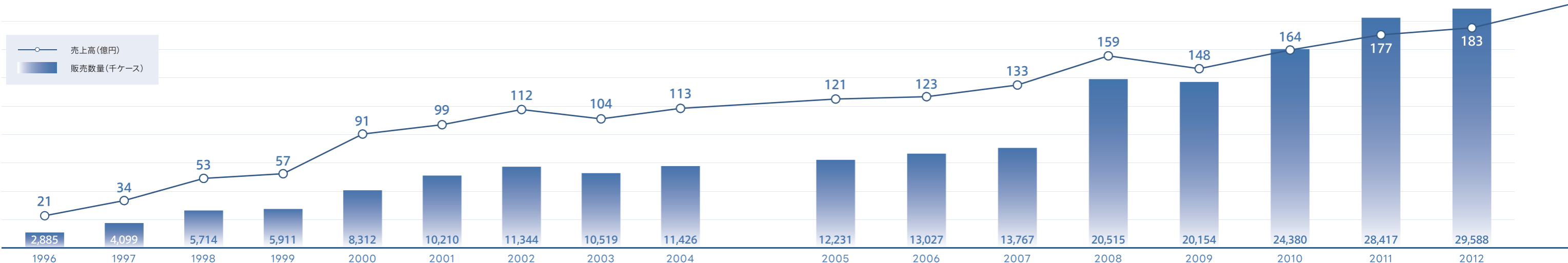
#### 創成期 2001-2007

人財教育の徹底とエネルギー対策・環境問題への取り組み

### イノベーションと挑戦で新商品を生み出す

#### 変革期 2008-2012

M&Aによる事業基盤の拡充と人財育成



### 2013

- HARUNA Asia (Thailand) Co.,Ltd. 設立

### 2014

- ビジネススクール榛名山麓研修所開所
- ハルナジョイパック 自社ブローボトル成型機導入、稼働
- HARUNA 国際食品飲料展 FOODEX Japanに出展



▲ ビジネススクール榛名山麓研修所開所



▲ 展示会の風景

### 2015

- 国際的食品安全マネジメントシステム「FSSC22000」取得
- 創業者青木清志が日刊工業新聞社主催の第33回優秀経営者顕彰「優秀創業者賞」を受賞

### 2016

- ハルナプロデュース株式会社設立

### 2017

- 経済産業省選定「地域未来牽引企業」に選定

### 2018

- 和歌山プラントLNGサテライト設備の導入
- スペイン販売会社と資本提携販売を開始
- SDGs 私債発行に伴う群馬県への県民基金への寄付



### 2019

- ハルナグループSDGs行動宣言
- 危機管理対策委員会を発足し、感染症対策や災害対策を強化
- 群馬テレビ社との共同制作オリジナルプロモーションビデオ制作
- 高崎ディストリビューションセンター完成
- ハルナトータルリワード運用開始
- 一般財団法人榛名美術設立

### 2020

- ハルナトータルリワード運用開始
- 一般財団法人榛名美術設立
- 創業25周年記念「Haruna Book」制作
- ぐんま緑の県民基金へ寄付



▲ ディストリビューションセンター

### 2021

- お客様満足度調査を開始
- 組織編成により2本部制から4本部制へ
- 社内公募企画によりキャッチコピー決定
- eラーニング制度の導入

### 2022

- ウクライナへミネラルウォーターを支援
- JR東日本クロスステーション様との提携工場にて天然水ボトリング事業がスタート
- TOKYO R&D LAB開設



▲ TOKYO R&D LAB



▲ JR東日本クロスステーション様との提携工場オープン

### 2023

- 東京アート(株)ミネラルウォーター事業の事業譲渡契約締結により(株)ハルナウォーター設立
- 創業者青木清志のお別れの会を執り行った
- ハルナウォーターが松川村と災害時協定を締結
- 能登半島地震へのミネラルウォーター支援
- 新Harunaロゴデザインの刷新および商標登録完了
- 社内公募企画によりハルナグループのキャラクターが決定



▲ 創業者青木清志のお別れの会



▲ 新Harunaロゴデザイン

▲ ハルナグループのキャラクター「ブルーベリー」

### 2024

- 持続的成長に向けた組織改革を実施
- 高崎・タニガワ・和歌山・松川
- 4プラントに太陽光発電を設置
- 安曇野の自然が育んだ天然水550ml モンドセレクション金賞受賞
- ハルナイノベーションセンター新設
- 榛名美術記念公園リニューアル



▲ 安曇野の自然が育んだ天然水550ml



▲ 榛名美術記念公園

### 2025

- 各拠点オフィスインノベーション
- 群馬県と連携し森林保全に貢献『ハルナビバレッジの森』が誕生
- KOBEインターナショナル全株式取得・子会社化
- ハルナイノベーションセンター2025年度グッドデザイン賞を受賞
- 内閣官房 水循環政策本部事務局より、グループ会社2社が「水循環ACTIVE企業」として認定された
- フランス・パリに日本茶カフェ出店く新ブランド「AiiRO」始動



▲ ハルナイノベーションセンター 外観



▲ ハルナイノベーションセンター ギャラリー

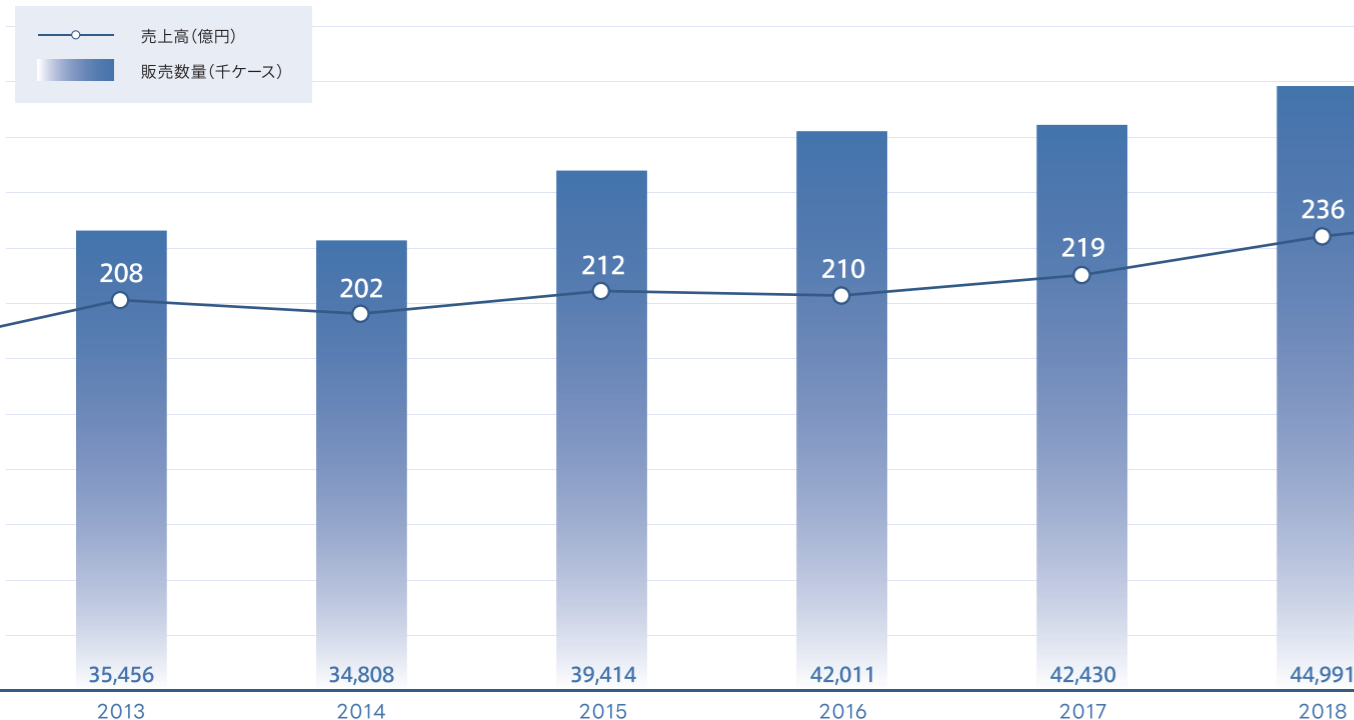
### 2026

- ハルナグループ創立30周年を迎える
- 新テレビCM制作 群馬テレビ報道番組「ニュースeye8」にて放映開始
- ハルナビバレッジ株式会社よりハルナグループホールディングス株式会社へ社名変更
- ハラル認証取得でグローバル対応を推進(和歌山・安曇野プラント)
- ハルナイノベーションセンターが群馬アーキテクチャーアワード2026最優秀賞を受賞

## イノベーションと挑戦で新商品を生み出す

### 第二変革期 2013-2018

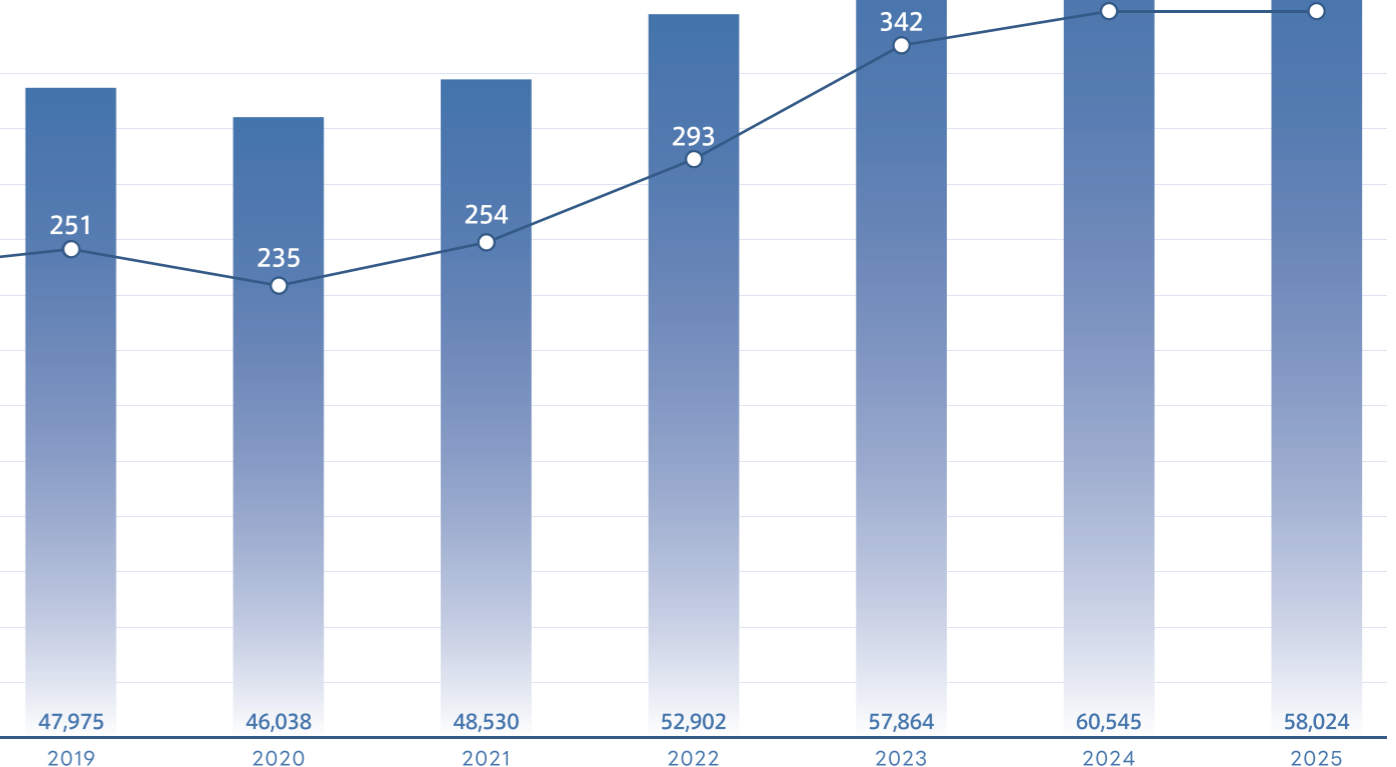
M&Aによる事業基盤の拡充とアジア事業の展開



## 価値ある商品をプロデュース

### 未来へ向けて 2019

企業価値の持続的発展に向けて



## ハルナビバレッジ株式会社から 「ハルナグループホールディングス株式会社」へ

この度、ハルナビバレッジ株式会社は2026年4月1日をもって「ハルナグループホールディングス株式会社」へ商号を変更いたしました。

### 背景 と 目的

当社は、創業以来の中核事業である国内飲料事業に加え、近年では海外での事業展開や新たな食品分野への進出など、積極的に事業領域を拡大してまいりました。このように事業が多角化した現状において、「ビバレッジ(飲料)」という言葉だけでは、私たちの事業全体を表すことが難しくなっておりました。

今回の商号変更は、多岐にわたるグループ事業全体を統括するホールディングカンパニーとしての役割を一層明確にすることを目的としています。これにより、グループ全体の経営効率とガバナンスを向上させ、持続的な成長と企業価値の最大化を実現してまいります。

#### 【変更概要】

新商号: ハルナグループホールディングス株式会社  
旧商号: ハルナビバレッジ株式会社  
変更日: 2026年4月1日



今後は、「ハルナグループホールディングス」という新社名のもと、役員ならびに社員一同、決意を新たに社業の発展に邁進してまいります。

### ハルナビジョン2026目標達成状況(主要KPI)

	ハルナビジョン2026	2025年度実績	差分
連結売上高	30,000百万円	35,734百万円	+5,734百万円
連結営業利益	1,000百万円	1,005百万円	+5百万円
賞与一人あたり平均支給額	150万円	158万円	+8万円
時間外労働時間(正社員一人あたり月平均)	20.0時間	17.8時間	△2.2時間

※賞与一人あたり平均支給額は2024年度平均支給額160万円と2025年度の2年連続で達成

### ハルナビジョン2030に向けた グループコアバリュー

ハルナウォーター社とハルナプロデュース社における全ての領域(生産性・生産数量・品質・営業・物流・人財交流)における相乗効果の更なる拡大

アセアン・アジアとのビジネス拡大

イノベーションセンターをハブとした、ロイヤルカスタマーとの新商品・ブラッシュアップの開発強化

新たなビジネスモデル(国内、海外企業との連携、コラボ、共同プロジェクトなど)とM&Aによる新収益源の創出

ハルナウェルビーイング ファイブ(キャリア・ソーシャル・ファイナンシャル・フィジカル・コミュニティ)の充実による持続可能な利益成長と人財成長の両輪

### グループビジョン

社会に幅広く必要とされる飲料やお客さまの潜在ニーズに応えるまだ存在していない飲料やワインを創造し、「飲む感動」「美味しさ」「喜び」「新しさ」「健康」を通じて皆様に信頼される企業グループを目指すとともに、全てのステークホルダーの満足を目指し持続的な企業価値向上を図る。

ハルナビジョン2026【2019年6月公表】



### MESSAGE

私たちハルナグループは、「人」と「現場」の力が、これからの企業成長の原動力であると強く信じています。ハルナイノベーションセンターを中心とした働き方改革や、各拠点での職場環境の改善、多能工育成(クロススキル)による現場力の強化、そして社員一人ひとりのモチベーションを高める仕組みづくりは、「人を活かす経営」の実現に向けた一歩です。今後は、グループ全体の人財資源をより有機的に結びつけ、多様な経験と知見を持つ社員が協働し、プラントを超えた連携(Cross Factories)によるシナジーを創出してまいります。また、「ハルナウェルビーイングファイブ」に示される5つの観点(キャリア・ソーシャル・ファイナンシャル・フィジカル・コミュニティ)を重視し、社

員一人ひとりの人生と働きがいを支える企業文化をさらに強化していきます。私たちが目指すのは、変化に強く、挑戦に前向きな組織づくりです。これからも「人」と「現場」に焦点を当て、持続可能な成長と価値創出の両立に努めてまいります。引き続き、温かいご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

ハルナグループCOO・CFO  
ハルナグループホールディングス株式会社 専務取締役  
ハルナプロデュース株式会社 代表取締役社長  
栗原 健一



「ヒトとデジタルの協働モデル」 HdXが目指す未来

ハルナグループは「ヒトとデジタルの協働モデル」を基軸としたデジタルトランスフォーメーション(HdXプロジェクト)を推進しています。各領域に分散していたシステムと業務プロセスを統合・連携し、バリューチェーン横断で情報が流れる仕組みを構築することで、部門の垣根を越えたスピード感のある事業運営の実現を目指しています。

01 | 営業・研究・製造の連携基盤の構築

独立して運用されている各システムを統合・連携し、バリューチェーン全体をデジタルでつなぎます。所管や組織の垣根を排除し、意思決定のスピードを飛躍的に高めることを狙います。

02 | マザーファクトリー構想の実現

ハルナグループを保有するナレッジ・ケイパビリティ・データを集約し、パートナープラントを含むサプライチェーン全体の情報を一元管理・共有することで、グループ全体の製造力を底上げします。

03 | 盤石なデータ基盤の整備

分散している情報を集約し、MS365をデータプラットフォームとしてデータ蓄積・分析基盤を構築します。安全かつ堅牢なプラットフォーム上でBI・AIを活用したデータドリブンな意思決定を可能にします。

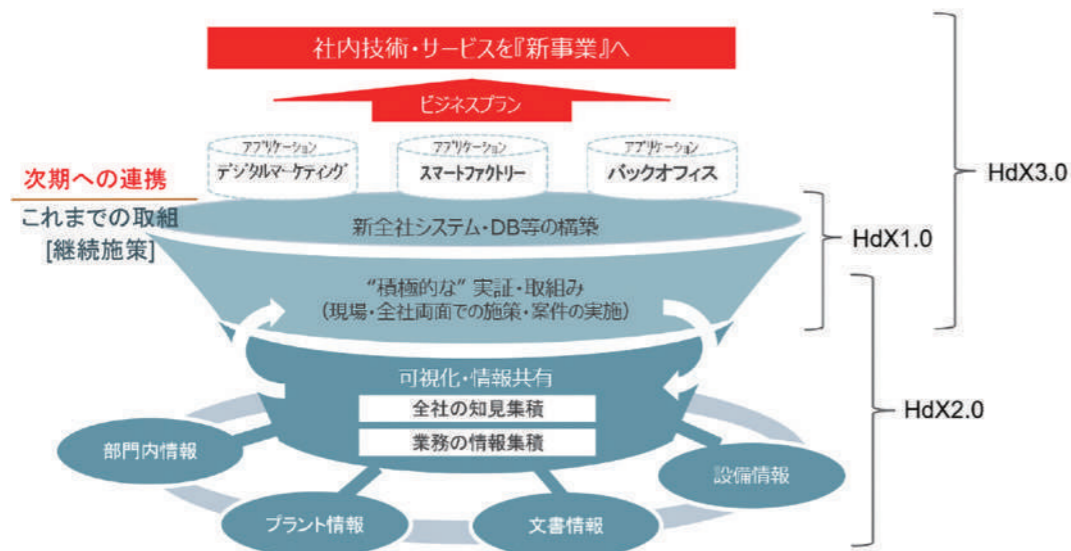
04 | 新領域に向けた柔軟な仕組み

事業多角化やウェルビーイング・環境といった変化する経営指標に対応できる柔軟なシステム設計とし、デジタルソリューションや外販や共創、M&Aによる拡大、グローバル展開など、将来を見据えた基盤を整えます。

これら4つの柱を元に、マネジメント層はデジタル・AIによる情報連携を通じて横断的に各部門を把握し、担当者レベルにおいても領域を越えた視野をもって業務を遂行する - これがHdXプロジェクトの目指す姿です。

[HdX3.0] デジタル変革で生み出す新たな価値

当社では2021年より段階的にHdXプロジェクトを推進して参りました。HdX1.0では全社の情報やノウハウを集約するプラットフォームを作り、HdX2.0では各事業領域のデジタル化を推進。そして次期HdX3.0では既存ビジネスモデルの変革および新規事業の創出へと取り組みを広げ、グループビジョンの実現と、企業パーパスの拡大強化を成し遂げ、新たな成長の道を切り拓いてまいります。



直近の取り組み事例 ヒトとデジタルの協働モデル

01 | 研究開発ノウハウ活用 AIプラットフォーム構築

研究開発チームのノウハウを統一&蓄積を行い、それらをRAGとしてAIエージェントチャットボットが参照しながら回答を生成する。対話形式で過去のノウハウを誰でも引き出せる仕組みにより、属人化を解消する。汎用的な構成を組んでおり、今後生産技術をはじめとした他事業への展開を行って参ります。



02 | 版下チェックサポート AIエージェント構築

ペットボトルラベルの版下チェックにおける誤字脱字や表示ミス、AIが自動で検出・指摘する仕組みを開発。画像認識AI、AI-OCR、文章生成AIを組み合わせて、食品表示法学習+社内履歴RAGにて精度を向上させることで、インシデントリスクを未然に防止する。



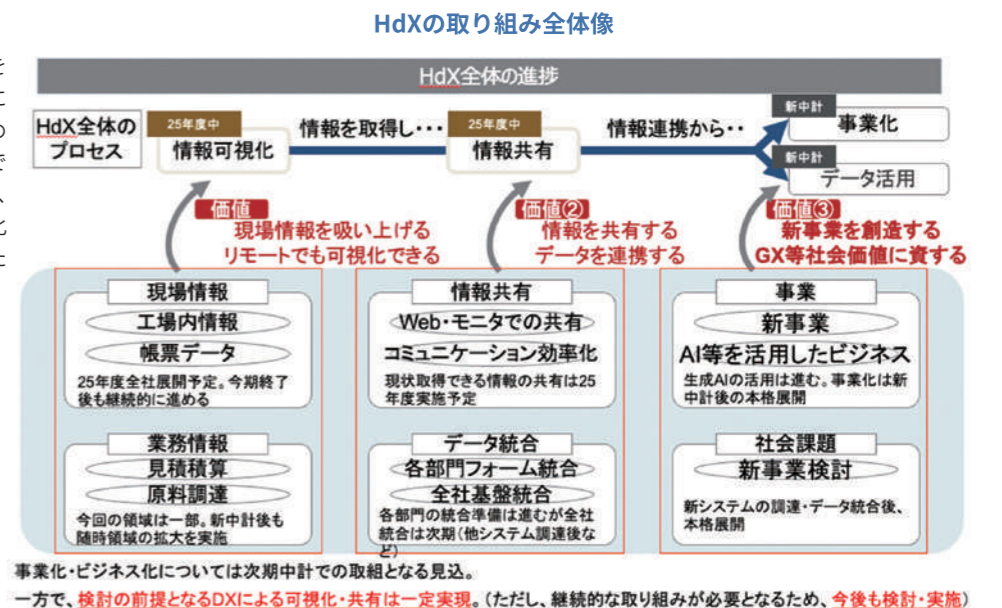
03 | 熱中症事前予測 AIデバイス「カオカラ」導入

化粧品大手POLA社の持つ数万人の表情データを基に、AIカメラが熱中症発症約2時間前の表情を検知。本人の自覚症状がない段階で予兆を検知する事ができ、組織として事前対策を講じる事でウェルビーイングに貢献します。



つなぐ、超える、共に拓く デジタルと歩むハルナのこれから

全社に蓄積された知見とデジタル技術をつなぎ、バリューチェーンの構造改革によってお客様への提供価値を絶えず高め続けること - それがHdXのミッションです。ハルナグループはこの変革を通じて、組織の垣根を越えた協働の力を最大化し、ステークホルダーの皆様と共に新たな価値の共創を実現してまいります。



事業化・ビジネス化については次期中計での取組となる見込。  
一方で、検討の前提となるDXによる可視化・共有は一定実現。(ただし、継続的な取り組みが必要となるため、今後も検討・実施)